進学通信

ステップゼミナールだより

ホップ・ステップ

3 March

第89号
2014年3月1日発行

『高専4名、市立看護2名合格！』

26日高専の合格発表があり、田村さん（景雲中）田中君・猪又君（美原中）の三人と工業高校を退学した石田君の4名が合格した。特に、石田君の合格は、覚悟を決めて目標に向かえばそれが実現することを証明してくれた。また、北陽高校の佐藤春奈さんと住川柚紀さんの二人が釧路市立看護に合格し、公立高校入試に向かって幸先の良いスタートとなった。

5日が入試だが、今年は過去にないくらいどの高校の倍率も低い。江南、北陽、明輝高校は高専に抜けるので定員割れすれすれとなる可能性が高い。

中学校での進路指導に疑問を感じる。とにかく推薦でが多すぎる。T中学校のあるクラスでは36中26人が推薦である。受験をする生徒わずか10名。クラスはうるさく受験の雰囲気ではないという。

こんな状況だから釧路の生徒は勉強しない。生徒数が減っているのに今年は高校の学級減もなかった。当然、学力は低くなる。

釧路の高校の定員1280人に対して1378人の出願でわずか98人のオーバー。ところが帯広は、市内と音更・芽室を含んで1600人の定員に対し2020人の出願で、420人と大きく出願者がオーバーしている。公立高校に入れない生徒たちは私立高校（2校ある）に行くより仕方が無くなる。

競争の無いところにふつうはやる気は生まれないので、釧路の子どもたちが勉強しないのは当たり前と言えば当たり前だ。このことは大学進学の実績にも顕著になって現れ、近年、帯広柏葉高校の北海道大学の合格実績に限って言えば、もはや釧路湖陵は足元にも及ばない状態になっている。

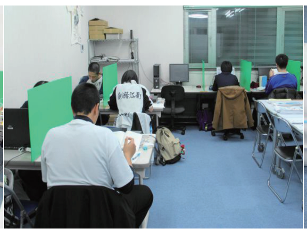
山岸君と藤田君の宿題をみる

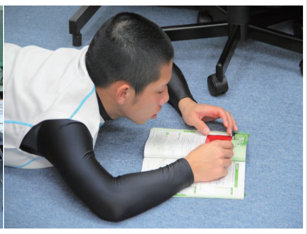
鳥取中の高橋さんと姉崎さん

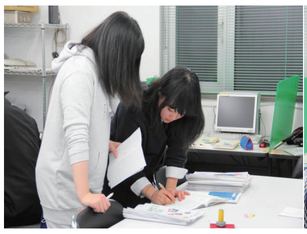
うがいする土井さん姉妹

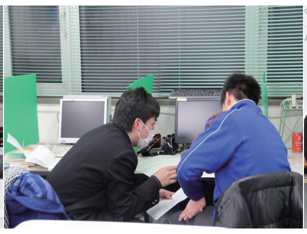
16日 吹雪の中で雪かき

雪かきのあと勉強を少しだけ


テスト期間、昼食を塾でとって、それから夜まで勉強しました


腰痛の小原君が床で勉強

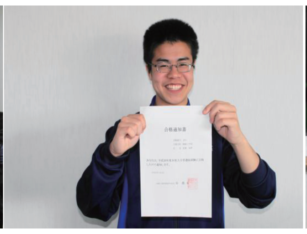

湖陵の石川さんと増山さん


理数科の稲沢君と高専の佐々木君

江南の山角君に粟野君が

22,23日の1000分特講

入試直前ゼミで真剣に勉強している受験生　インフルエンザがまた流行ってきました。体調管理に注意ですね！あと少し


工業高校を退学して高専に合格した石田君

釧路市立看護に合格の北陽高校の住川さん

「みんなで雪かき！大変でした。」

2月16日の日曜日は2月唯一の塾の休みの予定でしたが、高校生の定期テスト勉強をしたいという要望に応えて、「じゃあ、10時から5時まで塾を開ける」ということになりました。

天気予報でも吹雪きの予報は出ていましたが、最近は外れることが多いので、たいしたことにはならないだろうと。しかし、朝から吹雪の状態で塾に来て見ると既に25から30センチの積雪。困ったなと思っていたらKDSの鈴木君が雪のため教習が中止になったので塾に来た。文苑の湖陵の女子二人から雪で塾に行けないと電話してきた。鈴木君が「おれ、迎えに行ってやるよ。」と言って粟野君を乗せて迎えにいった。やはり途中で埋まった。高専の佐々木君、江南の小原君、私と大本先生、先生の奥さんの9人で写真にあるように12時近くまで雪かきをしました。

昼食のあと勉強を始めましたが、雪の止む様子がなく5時までやっていたら帰れなくなるかもしれないので3時で終わることに。

帰りは私が粟野君、小原君、石川さん、増山さんを乗せて帰ることになりましたが、5m動いたら埋まりました。このときは、みんなに押してもらいすぐに脱出できました。

道路は全く除雪されてなくて、でこぼこのひどい状態でしたが何とか文苑まで行って増山さんを降ろしたあと、石川さんが降りたところで埋まり、雪かきをしていた近所の人7、8人に助けられ、30分ほどかかってやっと脱出。そのあと小原君と粟野君を送って家に帰ったのは5時近かった。

それでも、この日、塾を開けなければ次の日の除雪は大変なことになっていたはず。結果的に塾を開けることで、みんなに除雪を手伝ってもらい大助かりでした。みなさんお疲れ様でした。

春休みになったという事で、慶応大学工学部の新田君が突然塾に来ました。その新田君の話から。

クラスの話を聞くと周りはできる人ばかりという。ところが、そのできる人たちが高校時代のできる人たちの話をするといいます。それを聞いていると心が折れそうになると。上には上があるということがよく分る話でした。

『春期講座』

25日から春期講座がスタートします。期間は25日から4月4日まで。期間中は午前9時から午後6時までで、新中三生は4時間、二年生は3時間です。新中一年生は25日から30日まで10時から12時までの2時間で数学、英語の先取り授業を行います。中学校の3年間では一年生の勉強が一番重要です。基礎学力と勉強する習慣を身につけなければ中学校の勉強についていけなくなります。特に大事なのが英語と数学です。

なお4月2日は中一、二年生、3日は中三生の学力コンクール（全員受験）があります。新高一年生の高校スタートダッシュは10日からです。3月も気を緩めずに勉強することの重要性は後で分ります。

・3月の予定・

日	曜日	予定
1	土	●入試直前ゼミ⑦
2	日	休塾 ●入試直前ゼミ⑧
3	月	
4	火	
5	水	■公立高校入学試験■
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	休塾
10	月	高校スタートダッシュ（6回）
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	休塾
17	月	■公立高校合格発表■
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	春分の日　休塾
22	土	
23	日	休塾
24	月	春期講座準備休み
25	火	●春期講座スタート●
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

この期間で週2回、合計6回

携帯電話の教室持込禁止
携帯電話の持込は禁止。連絡は塾の電話を使用して下さい。

発行：ステップゼミナール　088-0617　釧路町北都２－２－１　（TEL）0154-36-4170　HP : http://www.stepsemi.com　Mail：spirits@stepsemi.com

天声人語　1月30日から

流行歌に詳しいわけではないが、「最後のコイン」という言葉がでてくる歌詞を幾つか知っている。たとえば、さだまさしさんの「加速度」。♪最後のコインが今落ちたから　今迄（まで）のすべてがあと3分ね、って……。若い人には説明がいるだろう▼恋人が相手に「別れ」の電話をかけている場面である。かつて公衆電話の市内通話は１０円玉で３分だった。長引きそうなときは先に何枚か投入して、最後の１枚になると受話器から知らせる音が鳴った。わが学生時代の懐かしい曲だ▼調べると、もっと昔は１０円で無制限に話せた。長電話防止のために、１９６９年から３分で打ち切る制度を導入したという。「最後のコイン」は７０年代から携帯電話普及までが、言葉としての旬だったろう▼時は流れて、いまは１０円で１分の通話時間が、４月の消費増税で５７．５秒に短くなる。先ごろ記事が載っていたが、目に留められただろうか。最後に公衆電話を使ったのは……考え込む人が周囲には多い▼８４年の９３万台が、２１万台に減っている。街なかに路傍に、お見限りを恨むように寂しげにたたずむ。「あれほどお仕えしたのに」。世の中は人の数だけ携帯が歩く時代になった▼だが、どっこいである。東日本大震災を機に頼りになると見直され、ＮＴＴは設置場所をネットで表示している。拙宅から５分の公園脇に１台ある。携帯がダウンした時が出番となろう。活躍の日が来ないことを祈れば、箱形の電話機がどこか、お地蔵様に思えてくる。

天声人語　2月15日から

勘違いしそうな英語の一つに「スモークフリー」がある。たばこ吸い放題、ではない。反対に、たばこを吸わない、煙で悩まない、といった意味だから間違えると大変だ。フリーとは本来、何らかの拘束から解放された状態をいう▼それに倣（なら）えば、スマホフリーはスマートフォンを使わないこと。できるわけない、と悲鳴が聞こえそうだが、試みている会社が岐阜県にある。**私用のスマホを使わない社員に、毎月５千円の奨励金を出す制度をつくった**▼関市の岩田製作所で、正しくはデジタルフリー奨励金と呼ぶ。**社員が下を向いてスマホをいじり、昼休みの会話も減った光景に岩田修造社長（65）が考えた**▼「**人と話す。本を読む。物思いにふける。そんなアナログ的時間と空間が増えれば、想像力、表現力、他人をおもんぱかる力がつく。１０年もしたら相当に差が出て、企業としての競争力がつくだろうと思う**」。その言葉にうなずく▼社員９０人のうち２０人が手を挙げた。まだ多くはないが、「全員が挙手する会社なんて気持ち悪い。ぽつぽつと、徐々に変わればいい」。デジタルの奔流に溺れかかる時代に、「手ぶら」の爽快と効用は貴重である▼思えばスマホは、多種多彩なアプリでいよいよ厚化粧になって、人を手招きする。〈スマホをば二十一世紀の阿片（あへん）とは言い得て妙なり今日の車内は〉と昨年暮れの朝日歌壇にあった。きつい一首だが一面の真実でもあろう。ときには「フリーの風」に吹かれる一日が、あっていいと思う。

第一生命サラリーマン川柳から

- 電話口「何様ですかと？」聞く新人
- 人生にカーナビあれば楽なのに
- 「内定です」返った言葉が「マジッスカ！」
- 口ぐせは「知らない」「できない」「聞いてない」

全国高校生川柳コンクールから

- テストにも三分ほしいロスタイム
- スマートフォン　普及と共に　減る会話
- 三度目の　冬は来るのに　春は来ず
- 斜め前　近くて遠い　君の席

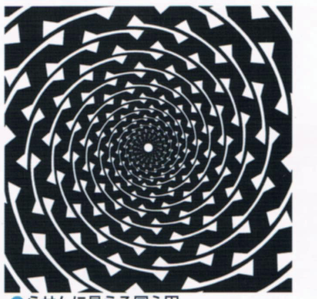
脳と心のかかわり

脳に関する研究は過去20年で大きな進歩を遂げた。人の脳の活動を頭の外から観測する方法が開発され、視覚認識や長期記憶のメカニズムなど多くの秘密が明らかになり、また、いくつかの脳神経疾患の根本的治療法開発された。しかし、脳のはたらき、しくみつくり、なりたちのどれをとっても、未解決の謎がまだ山のように残されており、次世代の挑戦を待っている。最大の問題は「脳がどうやって心を生み出すのか」である。

私たちの心のはたらきは，知覚，認識，記憶，学習，推論，行動選択，運動制御，注意，感情，言語，意識など様々な要素を含む。これらの精神活動を担っているのは脳である。

脳の一部を病気や事故で損なえば，これらの機能の一部を失い，脳が大きく傷つけば多くの機能が失われ，時には昏睡状態におちいる。脳が心のはたらきとかかわっていることは疑いようがない。しかし，脳がどうやって心を生み出すのかをつきつめて考えると，大きな謎にぶつかる。脳もまた，他の器官と同じように細胞の集まりであり，世界人口の10倍を超える数の神経細胞（ニューロン）が1人の脳の中につまっている。これらニューロンの集まりが，さらに言えば，ニューロンを構成する様々な分子やイオンのはたらきが，どうやってものが見える」とか「くやしい」とか「がんばろう」というような心のはたらきを生み出すのだろうか。

脳と心の関係を問う研究の最前線の1つが，視覚（ものを見ること）の研究だ。ものを見て，それが何であるかを知ることは，普通の人にとって，容易であり瞬間のできごとである。目を開ければ世界が見え，脳が何か特別なことをしているようには思えない。「見る」ことは誰かを好きになる」とか「数学の問題を解く」ことに比較して，比べものにならないくらい単純で「心」とよぶほどのものでないと思うかも知れない。



●らせんに見える同心円
この図のような錯視図形の存在は、世界を見ることに脳が大きくかかわっていることを示している。

しかし，実は，私たちが世界を見ているとき，脳は驚くほど複雑で膨大な情報処理を行っている。右図を見てみよう。カーブした格子模様の手前に，らせん模様が見える。では，らせんの1ヶ所から鉛筆でなぞってみよう。
らせんならば，なぞるにつれて鉛筆は内側に入っていき，最後には図の中心に向かうはずだ。ところがやってみると，鉛筆は同じところをぐるぐるまわるばかりである。実はここに描かれているのは，らせんではなくて，十数個の同心円なのだ。見ているあなたの網膜の上にも，らせんなど映っていない。にもかかわらず，らせんが見えるというこの事実は「目が世界を見ているのではない」ことを如実に物語っている。世界を見ているのは脳なのである。

藤田一郎　大阪大学大学院教授　フォトサイエンス生物図録から

田村舞雪さん（景雲中3年）がバトンの全国大会に出場します。その記事が新聞に掲載されました。受験勉強との両立は大変ですが頑張ってほしいですね！

（第三種郵便物認可）　釧　路

2中学生 バトン全国へ

附属釧路 塚原さん「高い目標持ち頑張る」

釧路景雲 田村さん「感謝の気持ちで演技」

全道大会で好成績を上げた仲間とともに練習に励む塚原さん（前列左から2人目）と田村さん（同3人目）

3月21日から名古屋市で開かれる第39回全日本バトントワーリング選手権大会に、釧路から2人の中学生が出場する。塚原由梨香さん（道教大附属釧路中学校1年生）は5度目の全国大会、田村舞雪さん（釧路市立景雲中学校3年）は2度目の代表だが、3年前の全国大会は東日本大震災の影響で開催が見送られ、幻の大会となっており、今回はその年と同じ名古屋市で開催されることから、2人はその時の思いも重ねて意欲満々、練習に取り組んでいる。（伊東義晃）

全国大会への予選を兼ねた北海道支部大会は昨年12月26日に札幌市で開かれた。この大会のソロトワール中学校部門で塚原さんが1位、田村さんが2位となり、ともに全国大会推薦を受けた。さらに塚原さんはコンパルソリー女子ジュニア部門とフリースタイル個人女子ジュニア部門でそれぞれ1位を獲得。名古屋市での全国大会の会場で同時開催される第32回世界バトントワーリング選手権大会日本代表選考会にも出場する。

塚原さんはこれまでに小学校3年生の時と昨年の大会で、ともに全国第4位に入っており、表彰台まであと一歩のところまできている。大会に向けての意気込みも「集中して踊りきりたい。全道大会での課題を練習で克服して全国大会に臨みたい。中学校部門になって、これまでよりレベルは上がっていますが、高い目標を持って頑張りたい」と話す。さらに「初めて挑戦する種目もあるので、表情をつけて踊れるようにしたい。楽しんできたい」と意欲的だ。

田村さんは高校受験の勉強との両立を図りながらの全国挑戦だが「全道大会では満足できる演技ができなかったので、全国大会ではこれまで支えてくれた人たちへの感謝の気持ちを込めて演技したい」と、全道大会で入賞を果たした仲間たちとともに練習に取り組んでいる。